

ジェンダー研究センター彙報<平成8年度>

(平成8年5月11日～平成9年3月31日)

職名は発令時による

1. 組織・人事関係

<組織>

国立学校設置法第5条第1項、第10条及び第13条の規定に基づき、施行規則の一部を改正する文部省令第18号により、お茶の水女子大学学内共同教育研究施設として、平成8(1996)年5月11日に設置認可された。なお、平成18年3月31日まで存続する、時限付き研究機関と定められた。

<運営委員会名簿> (括弧内は在任期間)

ジェンダー研究センター長(併)	利谷 信義	(平成8年5月11日～平成10年3月31日)
文教育学部長	窪添 慶文	(平成8年5月11日～平成8年9月30日)
	平野由紀子	(平成8年10月1日～平成10年9月30日)
理学部長	石和 貞男	(平成8年5月11日～平成10年3月31日)
生活科学部長 兼家政学部長	小林 彰夫	(平成8年5月11日～平成10年3月31日)
人間文化研究科長	森 隆夫	(平成8年5月11日～平成9年3月31日)
附属図書館長	大口勇次郎	(平成8年5月11日～平成10年3月31日)
文教育学部教授	天野 正子	(平成8年5月11日～平成10年3月31日)
理学部教授	室伏きみ子	(平成8年5月11日～平成10年3月31日)
生活科学部教授	田中 辰明	(平成8年5月11日～平成10年3月31日)
人間文化研究科教授	清水 碩	(平成8年5月11日～平成10年3月31日)
ジェンダー研究センター教授	原 ひろ子	(平成8年5月11日～)
ジェンダー研究センター助教授	館 かおる	(平成8年5月11日～)
事務局長	砂本 宏	(平成8年5月11日～平成8年6月30日)

北根 康志 (平成8年7月1日～平成9年3月31日)

<スタッフ名簿> (括弧内は在任期間)

センター長(併) 生活科学部教授	利谷 信義	(平成8年5月11日～平成10年3月31日)
専任教授	原 ひろ子	(平成8年5月11日～)
専任助教授	館 かおる	(平成8年5月11日～)
外国人客員教授	Thanh-Dam Truong (タン・ダム・トゥルン)	(オランダ国立社会科学研究所教授) (平成8年10月1日～平成8年12月31日)
	金 ジェイン 在任	(韓国女性開発院教授) (平成9年1月1日～平成9年4月30日)
客員教授(国内)	小林富久子	(早稲田大学教授) (平成8年5月11日～平成9年3月31日)
	伊藤 るり	(明治学院大学助教授) (平成8年5月11日～平成9年1月31日)
研究員 (非常勤講師)	大澤 真理	(東京大学社会科学研究所助教授) (平成8年5月11日～平成9年1月31日)
	芦野 由利子	(日本家族計画連盟事務局次長) (平成8年5月11日～平成9年3月31日)
研究協力員	天野 正子	(本学文教育学部教授) (平成8年5月11日～平成9年3月31日)
	大口 勇次郎	(本学文教育学部教授) (同上)
	亀井 理	(本学理学部教授) (同上)

島田 淳子 (本学生活科学部教授) (同上)	川原ゆかり (平成8年12月1日～ 平成9年3月31日)
篠塚 英子 (本学生活科学部教授) (同上)	リサーチ・ アシスタント 佐野 信子 (平成8年8月1日～ 平成9年3月31日)
大井 玄 (国立環境研究所副所長) (同上)	教務補佐員 石井 妙子 (平成8年5月11日～ 平成9年3月31日)
サイキ ^{サイキ} 戊木クレイグヒル滋子 (東海大学助教授) (同上)	荻野 正恵 (同上)
鈴木 伸枝 (ハワイ大学大学院 博士課程Ph.D.取得資格) (同上)	小島 優 (平成8年9月1日～ 平成8年12月31日)
鈴木 陽子 (JICA専門員) (同上)	立花 郁子 (平成8年5月11日～ 平成8年11月6日)
田澤 薫 (元鶴川女子短期大学非常勤講師) (平成8年5月11日～ 平成8年9月30日)	堀 千鶴子 (平成8年5月11日～ 平成9年3月31日)

柘植あづみ
(北海道医療大学専任講師)
(平成8年5月11日～
平成9年3月31日)

西山千恵子
(東京国際大学非常勤講師) (同上)
Noll Ortega Tamiko(ノール・オルテガ・タミコ)
(ピッツバーグ大学大学院
博士課程 Ph.D.取得資格)
(平成8年9月10日～
平成9年3月31日)

松浦 いね
(たばこ総合研究センター客員研究員)
(平成8年5月11日～
平成9年3月31日)

松田 久子
(元理化学研究所非常勤職員)(同上)

村松 安子
(東京女子大学教授) (同上)

山崎美和恵
(埼玉大学名誉教授) (同上)

山本 禮子
(和洋女子大学教授) (同上)

研究機関研究員 田澤 薫 (平成8年10月1日～
平成9年3月31日)

根村 直美 (平成8年11月12日～
平成9年3月31日)

2. 会議・広報・施設関係

<運営委員会の開催>

平成8年5月14日/5月29日(持回り)/6月3日(持回り)
/6月24日(持回り)/7月17日/9月1日/9月26日(持回り)
/10月3日(持回り)/11月6日/11月27日(持回り)/12月
10日/平成9年1月28日/3月11日

<広報活動>

5月13日(月)にジェンダー研究センターの発足にあたり、
記者会見を行なった。

掲載記事: 文教速報、平成8年5月20日付
文教ニュース、平成8年5月20日付
女性ニュース、平成8年5月20日付
朝日新聞、平成8年5月28日付朝刊
毎日新聞、平成8年5月28日付朝刊

<施設関係>

附属図書館内に外国人客員研究員研究室を設置した(19㎡)。
またアークマンションの一室を外国人客員研究員宿舎とした。

3. 研究調査活動

<センター研究プロジェクト>

I-1-1「アジアにおける女性と開発」研究

[研究担当]

タン・ダム・トゥルン(ジェンダー研究センター外国人客員
教授・オランダ社会科学研究所教授)

伊藤 るり(ジェンダー研究センター客員助教授・明治学院
大学国際学部助教授)

大澤 真理(ジェンダー研究センター研究員・東京大学社会
科学研究所助教授)

村松 安子(ジェンダー研究センター研究協力員・東京女子

大学教授)

鈴木 伸枝 (ジェンダー研究センター研究協力員・ハワイ大学大学院博士課程Ph.D.取得資格)

鈴木 陽子 (ジェンダー研究センター研究協力員・JICA専門員)

原 ひろ子 (ジェンダー研究センター教授)

館 かおる (ジェンダー研究センター助教授)

〔研究内容〕

①タン・ダム・トゥルン教授が、平成8年10月3日(木)~12月19日(木)まで10回の夜間セミナー「開発とジェンダー」を開催した。於：附属図書館第二会議室(18:00~21:00)。参加者延べ277名。

10月24日(木) “Gender and Human Development: Framing the Issues” 「ジェンダーと人間開発—その課題と枠組を考える」

10月24日(木) “Gender and Power: The Body and Culture” 「ジェンダーと権力—身体と文化」

10月29日(火) “Gender, the State and Human Rights” 「ジェンダー、国家、人権」

10月31日(木) “Gender, the State and Economic Restructuring” 「ジェンダー、国家、経済構造の再編」

11月5日(火) “Restructuring Socialist States: the Woman’s Question Revisited” 「社会主義国家の再編—女性問題の新たな課題再見」

11月7日(木) “Women’s Employment in an Age of Globalization: Revisiting the Women’s Emancipation Thesis” 「グローバル化時代の女性の雇用—女性解放論再考」

11月14日(木) “Human Development as a Capability Approach: Whose Capability and What Capability?” 「潜在能力重視アプローチによる人間開発—誰の潜在能力か、何がその潜在能力か」

11月19日(火) “Gendered Social Arrangements and International Female Migration: Human Development and Citizenship” 「ジェンダー化された社会的装置と女性の国際移動—人間開発と市民権」

12月12日(木) “Changing the Rules?: The Potentials and Limits of Gender Planning” 「ルールを変える?—ジェンダープランニングの限界と可能性」

12月19日(火) “Capability or Compassion?: Human Development from a Feminist Perspective” 「潜在能力重視?それとも慈善的同情?—フェミニ

ストの視点からの人間開発」

②タン・ダム・トゥルン教授が、10月26日に公開講演会 “Sexual Labour in Contemporary Capitalism” 「現代資本主義における性労働」を開催した。於：共通講義棟2号館102 (13:30~16:00)。参加者64名。

通訳：西尾道子 (文教育学部教授)、石川純子

③12月17日、国際シンポジウム “Development and Women’s Labour in Asia” 「アジアにおける開発と女性労働」を東京大学社会科学研究所と共催で開催した。於：理学部3号館701 (12:30~17:30)。参加者145名。

挨拶：和田春樹 (東京大学社会科学研究所長)

利谷信義 (ジェンダー研究センター長)

報告者：

タン・ダム・トゥルン (ジェンダー研究センター外国人客員教授・オランダ社会科学研究所教授)

“The Place of Women’s Labour in the Process of Industrialization: Demystifying the East Asian Miracle”

「アジアの新工業化の成長神話を問う—工業化と女性労働—」

伊藤るり (ジェンダー研究センター客員助教授・明治学院大学国際学部助教授)

“Asian Women Migrants: A Mirror Image of Development and Female Labour in Japanese Society”

「経済大国日本のミラーイメージ—アジアの女性移住者たち—」

グレンダ・ロバーツ (ハワイ大学准教授・東京大学社会科学研究所客員教授)

“The Human Consequences of Migration to Japan from a Gender Perspective, as Viewed from the Activities of Support Groups”

「国際労働移動が揺さぶる人間のあり方—日本における外国人労働者支援グループのジェンダー分析—」

コメンテーター：広渡清吾 (東京大学社会科学研究所教授)

大澤真理 (ジェンダー研究センター研究員・東京大学社会科学研究所助教授)

通訳：田中深雪

I-2-1 「アジアにおけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツ」に関する研究

〔研究担当〕

芦野由利子 (ジェンダー研究センター研究員・日本家族計画

連盟事務局次長)

大井 玄 (ジェンダー研究センター研究協力員・国立環境研究所副所長)

戈木クレイグヒル滋子 (ジェンダー研究センター研究協力員・東海大学助教授)

佐野 信子 (ジェンダー研究センターリサーチ・アシスタント)

田澤 薫 (ジェンダー研究センター研究協力員・研究機関研究員)

柘植あづみ (ジェンダー研究センター研究協力員・北海道医療大学専任講師)

原 ひろ子 (ジェンダー研究センター教授)

根村 直美 (ジェンダー研究センター研究機関研究員)

〔研究内容〕

「ジェンダーと健康 (GHS) 研究会」を開催した。

於：附属図書館第二会議室 (18:00~21:00)。

5月13日 (月) 自己紹介

6月3日 (月) 芦野由利子「リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて」

7月1日 (月) 柘植あづみ「Guidelines of Ethical Issues in Medical Genetics and the Provision of Genetics Services について」

9月10日 (火) ソムアツ・ウォンコムトオン (東京大学医学部教授)「タイにおけるリプロダクティブ・ヘルス—地域医療の現場からの検討—」

11月5日 (火) 田澤 薫「未成年者保護施設におけるジェンダーとリプロダクティブ・ヘルス—考察1: 歴史的・今日の問題点の枠組み—」

兵藤 智佳「国連人口・家族計画に及ぼすWIDの影響」

12月16日 (月) 東 優子「Gender Identity & Sexual Identity—日本における非典型的な男女をめぐる状況—」

平成9年

1月22日 (水) 戈木クレイグヒル滋子 “The Children’s Sentinels: Mothers and their Relationship with Health Professionals in the Context of Japanese Health Care”

3月17日 (月) 大井 玄「クオリティ・オブ・ライフ (QOL) と現実認識—痴呆老人と進行がん患者に学ぶ—」

II-1-1 「映像表現とジェンダー」に関する研究

〔研究担当〕

小林富久子 (ジェンダー研究センター客員教授・早稲田大学教授)

館 かつる (ジェンダー研究センター助教授)

〔研究内容〕

「フェミニズムと現代思想/映像表現とジェンダー」の研究会を開催した。於：附属図書館第二会議室 (13:00~17:00)。

4月19日 (金) 小林富久子「アメリカにおけるフェミニズム映画の流れ—初期を中心に—」の報告。

5月24日 (金) ミシェル・シトロン監督『娘の儀式』ビデオ鑑賞およびディスカッション。小林富久子解説。

6月21日 (金) ロベルト・ロッセリーニ監督『ストロンポリー』ビデオ鑑賞およびディスカッション。北島慶子 (早稲田大学大学院修士課程映画専攻修了) 解説。

7月23日 (火) 出光真子監督 *What a Woman Made, Animus Part 2, Great Mother (YUMIKO), The Marriage of YASUSHI, KIYOKO's Situation* ビデオ鑑賞およびディスカッション。

9月27日 (金) Teresa de Lauretis “Aesthetic and Feminist Theory: Rethinking Women’s Cinema” について、矢口悦子 (東京医科歯科大学非常勤講師) が報告。

11月5日 (火) リジー・ボーデン監督『炎の中に生まれる』ビデオ鑑賞およびディスカッション。小林富久子解説。

11月29日 (金) 原一男監督『全身小説家』ビデオ鑑賞。「『全身小説家』における映像の下の虚構性と差別構造」について、鈴木郁子 (井上光晴文学伝習所伝習生) が報告。

12月4日 (水) 第10回月例研究会と合同研究会 ジェームス・F・ウォレン (京都大学東南アジア研究センター客員教授)『傷ついた鳥たち』ビデオ上映および講義。

平成9年

1月31日 (金) トリン・T・ミンハ監督『姓はヴェト 名はナム』、『ルアッサンブラージュ』ビデオ鑑賞およびディスカッション。小林富久子解説。

2月28日 (金) Gloria Gibson “Aspects of Black Feminist Cultural Ideology in Films by Black Woman Independent Artists” について、北島慶子が報告。

3月28日 (金) ジュリー・ダッシュ監督『海から来た娘たち』ビデオ鑑賞・ディスカッション。

II-1-2 「公共芸術におけるジェンダー」

〔研究担当および内容〕

西山千恵子 (東京国際大学非常勤講師) がカナダ、オンタリ

オ州ヨーク大学夏期大学に出席し、月例研究会で報告した。

Ⅱ-2-1 「近世日本の女性と社会」

〔研究担当〕

大口勇次郎（ジェンダー研究センター研究協力員・文教育学部教授）

その他の頼梅颯研究会メンバー

〔研究内容〕

『頼梅颯日記』についての講読をした。

Ⅲ-1-1 「ジェンダー規範とその作用形態に関する研究」

〔研究担当〕

たばこ総合研究センターとの〈国内共同研究プロジェクト〉として推進。

館 かおる（ジェンダー研究センター助教授）

松浦 いね（ジェンダー研究センター研究協力員・たばこ総合研究センター客員研究員）

その他の「女性とたばこ」研究会メンバー

堀 千鶴子（ジェンダー研究センター教務補佐員・一橋大学大学院博士課程）

山崎 朋子（千葉大学大学院博士課程）

磯山久美子（本学大学院人間文化研究科博士課程）

中村 文（本学大学院人間文化研究科博士課程）

藤田 和美（本学大学院人間文化研究科博士課程）

サラ・ティズリー（ジェンダー研究センター研究生）

〔研究内容〕

「女性とたばこ」研究会を『「たばこをめぐる女性」の表象』というテーマで開催した。於：附属図書館第二会議室（10:00～15:00）。研究報告書としてたばこ総合研究センター／お茶の水女子大学ジェンダー研究センター編『「たばこをめぐる女性」の表象』を刊行した。

平成8年7月15日（月）／9月2日（月）／11月19日（火）／平成9年2月20日（木）

Ⅲ-1-2 「植民地下朝鮮における女子中等教育の研究」

〔研究担当〕

山本 禮子（ジェンダー研究センター研究協力員・和洋女子大学教授）

館 かおる（ジェンダー研究センター助教授）

その他の高等女学校研究会メンバー

新井 淑子（埼玉大学教授）

福田須美子（相模女子大学教授）

太田 孝子（岐阜大学助教授）

〔研究内容〕

高等女学校研究会を開催。於：ジェンダー研究センター長室（13:00～17:00）。韓国での平成8年3月27日（水）～30日（土）の調査研究に基づき、平成8年度は、文書資料の収集と韓国の高等女学校卒業生へのインタビュー調査を実施した。

平成8年4月22日（月）／6月24日（月）／8月31日（土）／10月14日（土）／12月9日（土）／平成9年1月27日（月）／2月1日（土）／3月29日（土）

Ⅲ-2-1 「日本社会のジェンダー観に関する研究」

〔研究担当〕

館 かおる（ジェンダー研究センター助教授）

原 ひろ子（ジェンダー研究センター教授）

〔研究内容〕

日本の学校教育における男女平等教育を「ジェンダーと自己形成」の視点から検討した。

Ⅲ-2-2 「現代日本における『未婚』『独身』『シングル』『非婚』とジェンダー」に関する研究

〔研究担当および内容〕

ノール・オルテガ・タミコ（ピッツバーグ大学大学院博士課程Ph.D.取得資格）が、日本の婚姻観にかかわる調査研究を行った。

Ⅳ-1-1 「大学教育とジェンダー」に関する研究

〔研究担当〕

〈学内共同研究プロジェクト〉として、特定研究費による研究組織を構成。

利谷 信義（研究代表者：ジェンダー研究センター長）

土屋 賢二（本学文教育学部教授）

天野 正子（本学文教育学部教授）

千歳 壽一（本学文教育学部教授）

平野由紀子（本学文教育学部教授）

加賀 秀夫（本学文教育学部教授）

富永 靖徳（本学理学部教授）

藤枝 修子（本学理学部教授）

小川昭二郎（本学生活科学部教授）

田中 辰明（本学生活科学部教授）

小林富久子（ジェンダー研究センター客員教授・早稲田大学教授）

原 ひろ子（ジェンダー研究センター教授）

館 かおる (ジェンダー研究センター助教授)

[研究内容]

全国四年制私立大学と各学問分野の学生及び教員のジェンダー分布に関する調査研究を行い、研究報告書としてジェンダー研究センター編『大学教育とジェンダー』を刊行した。

IV-1-2 「大学における『開発とジェンダー』教育プログラムに関する研究」

[研究担当]

〈学内共同研究プロジェクト〉として、教育研究学内特別経費による研究組織を構成。

タン・ダム・トゥルン (ジェンダー研究センター外国人客員教授・オランダ社会科学研究所教授)

伊藤 るり (ジェンダー研究センター客員助教授・明治学院大学国際学部助教授)

大澤 真理 (ジェンダー研究センター研究員・東京大学社会科学研究所助教授)

原 ひろ子 (ジェンダー研究センター教授)

[研究内容]

大学における「開発とジェンダー」教育プログラムに関する研究を行ない、研究報告書ジェンダー研究センター編『大学教育とジェンダー』に研究成果を掲載し、刊行した。

IV-2-1 「科学研究者の環境に関する調査研究—男女比較を中心に—」

[研究担当]

〈国内共同研究プロジェクト〉として文部省科学研究費による研究組織を構成。

原 ひろ子 (研究代表者:ジェンダー研究センター教授)

浅倉むつ子 (東京都立大学教授)

池田 裕恵 (東洋英和女学院大学教授)

石井摩耶子 (恵泉女学園大学教授)

一番ヶ瀬康子(長崎純心大学教授)

岩崎 芳枝 (郡山女子大学教授)

大隅 正子 (日本女子大学教授)

大野 淑 (東京工業大学助教授)

垣本由紀子 (鹿児島県立短期大学教授)

加藤春恵子 (東京女子大学教授)

木野内清子 (大妻女子大学教授)

玄番 央恵 (関西医科大学教授)

小島 操子 (聖路加看護大学教授)

島田 淳子 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学生活科学部教授)

島村 礼子 (津田塾大学教授)

下村 道子 (大妻女子大学教授)

田端 光美 (日本女子大学教授)

土器屋由紀子(気象庁気象大学教授)

鳥居 淳子 (成城大学教授)

直井 道子 (東京学芸大学教授)

永井 玲子 (大阪大学名誉教授)

丹羽 雅子 (奈良女子大学教授)

馬場 房子 (亜細亜大学教授)

森島 啓子 (国立遺伝学研究所教授)

川原ゆかり (ジェンダー研究センター研究機関研究員)

鶴沢由美子 (本学大学院人間文化研究科博士課程)

[研究内容]

「科学研究者の環境に関する調査研究」のアンケート調査を実施し、研究会を開催した。

IV-2-2 「女性と自然科学に関する研究」

[研究担当]

亀井 理 (ジェンダー研究センター研究協力員・お茶の水女子大学理学部教授)

松田 久子 (ジェンダー研究センター研究協力員)

山崎美和恵 (ジェンダー研究センター研究協力員・埼玉大学名誉教授)

館 かおる (ジェンダー研究センター助教授)

[研究内容]

湯浅年子の総合的研究を行い、目録作成作業と、青森テレビ制作のテレビ番組「日本科学の先駆者達—湯浅年子—」に制作協力した。

V-1-1 「女性政策推進機構の研究」

[研究担当]

金 在任 (ジェンダー研究センター外国人客員教授・韓国女性開発院教授)

館 かおる (ジェンダー研究センター助教授)

[研究内容]

金在任教授が、平成9年3月7日(金)に月例研究会で「韓国における女性政策の現状と課題—女性発展基本法及び放課後保育制度を中心に—」を報告した。於:附属図書館第二会議室。参加者17名。

V-1-2 「社会政策、社会保障制度とジェンダーに関する研究」

〔研究担当及び内容〕

篠塚英子（本学生活科学部教授）が研究を推進した。

〈学内共同研究プロジェクト〉

①平成8年度特定研究による〈学内共同研究プロジェクト〉として、「大学教育とジェンダーⅠ」の研究を行い、研究報告書を刊行した。（Ⅳ－1－1「大学教育とジェンダー」に関する研究参照）

②平成8年度教育研究学内特別経費「大学における『開発とジェンダー』教育プログラムに関する研究」を行ない、
○「開発とジェンダー」研究教育に関する研究会の開催、
○「開発とジェンダー」に関する文献の収集及び研究、
○日本の大学における、「開発とジェンダー」教育プログラムに関する研究を行った。

③大学院人間文化研究科博士課程との共同研究プロジェクト「諸文化における女性の一生に関する研究会」を開催した。
〔研究担当〕

原 ひろ子（ジェンダー研究センター教授）

田中真砂子（本学教育学部教授）

本学大学院人間文化研究科博士課程学生

〈国内共同研究プロジェクト〉

①科学研究者の環境に関する調査研究（文部省科学研究費基盤研究（A））として「科学研究者の環境に関する調査研究—男女比較を中心に—」を行なった。（Ⅳ－2－1「科学研究者の環境に関する調査研究—男女比較を中心に—」参照）

②たばこ総合研究センターと共同研究を行い、研究報告書『たばこをめぐる女性』の表象』を刊行した。（Ⅲ－1－1「ジェンダー規範とその作用形態に関する調査研究」参照）

③国立民族学博物館地域研究企画交流センター（研究代表：押川文子）とジェンダー研究センター（研究代表：原ひろ子）との連携研究として、「地域社会の変化と女性」研究会を組織し、東アジア、南アジア、中東を中心とする研究報告を行なった。

〈国際共同研究〉

①国立婦人教育会館との共同研究「開発と女性に関する文化的横断的調査研究」の研究分担者として原ひろ子が参加し、報告書『開発と女性に関する文化的横断的研究』の作成準備をした。

②JICA（国際協力事業団）との共同研究、「ネパールにおける社会林業と女性」に原ひろ子が参加し、『平成8年度ネパール村落振興・森林保全計画「ジェンダーと地域参加に関わる技術指導」短期専門家報告書』を作成した。

4. 研究交流・成果公表活動

〈公開研究会・講演会・シンポジウム〉

平成8年4月より平成9年3月の間の発表者及びその題目は次の通りである（敬称略）。なお、ジェンダー研究センターの正式の発足は5月11日であるが、4月からの活動を掲載した。

4月10日（水）月例研究会

アパルナ・バス（インド・デリー大学教授）
“Women’s Organizations in India: A Case Study of the All India Women’s Conference”

5月20日（月）原 ひろ子、前田 瑞枝、大澤 真理編『アジア・太平洋地域の女性政策と女性学』（新曜社）
合評会

評者：岡沢 憲美氏（早稲田大学教授）

伊藤 セツ（昭和女子大学教授）

5月31日（金）月例研究会

原 ひろ子（ジェンダー研究センター教授）「リプロダクティブ・ヘルス/ライツとジェンダー」

7月1日（月）月例研究会

Catherine Macklon（作家・講演家）“UK Workers and Gender Relations in Japanese Run Companies in England”

7月8日（月）月例研究会

鈴木 伸枝（ジェンダー研究センター研究協力員）「都市部における日比結婚：『国際結婚』、表象、ジェンダー再考（中間報告）」

7月18日（木）月例研究会

サキコ・フクダ・パー（ニューヨーク国連開発基金ヒューマン・ディベロップメント・オフィスディレクター）「人間開発とジェンダー」

8月7日（水）月例研究会

杉田 映理（JICAケニア事務所勤務）「ケニアにおけるJICAプロジェクトとジェンダー」
西山千恵子（東京国際大学非常勤講師、ジェンダー研究センター研究協力員）「カナダ、オンタリオ州ヨーク大学1996年夏期大学 “Women’s Rights are Human Rights: Theorizing Global Connections” 出席報告」

9月3日（火）月例研究会

小島 優（オランダ社会科学研究所修士課程修了）

- 「日本におけるアジアからの花嫁問題：再構築されるジェンダー関係とその社会的意味」
- 9月23日(月) 国際シンポジウム“The Globalization of Gender Studies”「ジェンダー研究のグローバル化」
挨拶：利谷 信義(ジェンダー研究センター長)
スピーカー：
リリィ・M・リン(米国シラキュース大学政策科学部グローバル化研究所)
御坐由美子(国際基督教大学助教授)
ジェーン・パーパート(米国ダルハウジー大学教授)
- 10月7日(月) 月例研究会
池田 悦子(都留文科大学非常勤講師)「紛争解決におけるジェンダー分析：国連平和維持活動UNTACとカンボジア女性の人権」
- 10月26日(土) 公開講演会
タン・ダム・トゥルン(ジェンダー研究センター外国人客員教授・オランダ社会科学研究所教授)
“Sexual Labour in Contemporary Capitalism”「現代資本主義における性労働」
通訳：西尾道子(本学文教育学部教授)、石川純子
- 11月15日(金) 月例研究会
小林富久子(ジェンダー研究センター客員教授・早稲田大学教授)「トリン・T・ミンハにおけるジェンダーとエスニシティの政治学：『月が赤く満ちる時』を読む」
- 12月4日(水) 月例研究会
ジェームス・F・ウォレン(京都大学東南アジア研究センター客員教授) “The AH KU and KARAYUKI-SAN of Singapore — Their Lives: Sources, Methods and a Historian’s Representation—”
- 12月17日(火) 国際シンポジウム “Development and Women’s Labour in Asia” 「アジアにおける開発と女性労働」(東京大学社会科学研究所と共催)
挨拶：和田春樹(東京大学社会科学研究所長)
利谷信義(ジェンダー研究センター長)
報告者：
タン・ダム・トゥルン “The Place of Women’s Labour in the Process of Industrialization: Demystifying the East Asian Miracle”
「アジアの新工業化の成長神話を問う—工業化と女性労働—」

- 伊藤るり “Asian Women Migrants: A Mirror Image of Development and Female Labour in Japanese Society” 「経済大国日本のミラーイメージ—アジアの女性移住者たち—」
グレンダ・ロバーツ(ハワイ大学准教授・東京大学社会科学研究所客員教授) “The Human Consequences of Migration to Japan from a Gender Perspective, as Viewed from the Activities of Support Groups” 「国際労働移動が揺さぶる人間のあり方—日本における外国人労働者支援グループのジェンダー分析—」
コメンテーター：
広渡清吾(東京大学社会科学研究所教授)
大澤真理(ジェンダー研究センター研究員・東京大学社会科学研究所助教授)
通訳：田中深雪

平成9年

- 3月7日(金) 月例研究会
金 在任(ジェンダー研究センター外国人客員教授・韓国女性開発院教授)「韓国における女性政策の現状と課題—女性発展基本法及び放課後保育制度を中心に」

〈セミナー〉

- 10月3日(木)～12月19日(木) 夜間セミナー(計10回) タン・ダム・トゥルン「開発とジェンダー」
(I-1-1「アジアにおける女性と開発」研究参照)

〈刊行物〉

- ①お茶の水女子大学ジェンダー研究センター編・刊『大学教育とジェンダー』(平成9年3月)
②たばこ総合研究センター／お茶の水女子大学ジェンダー研究センター編・刊『「たばこをめぐる女性」の表象』(平成9年3月)

5. 研究指導・教育活動

〈研究生〉(括弧内は在籍期間)

- 池田 成美 「『嫁』役割の研究」
(平成8年5月11日～平成9年3月31日)
小泉 京子 「教師文化とジェンダー」
(平成8年5月11日～平成9年3月31日)
伊吹山真帆子 「近・現代の子供の音楽とそのジェンダー分析」
(平成8年5月11日～平成8年9月30日)
中野裕美子 「『日本的経営』と『主婦』役割に関する研究」
(平成8年5月11日～平成9年3月31日)

鈴木 瑛子 「中東におけるジェンダー」
(平成8年5月1日～平成8年10月31日)

〈学部出講・大学院担当〉

原 ひろ子

コア科目(基礎ゼミ)(前期)

(総合科目)総合コース(後期)

家政学研究科(修士課程)家庭経営学専攻

女性学特論Ⅰ/修士論文指導(通年)

人間文化研究科(博士課程)人間発達学専攻 女性学講座

前期特殊講義

比較ジェンダー論演習(1)(2)

博士論文指導

館 かおる

文教育学部 社会教育特講Ⅰ(前期)

生活科学部 女性史(後期)

家政学研究科(修士課程)家庭経営学専攻

女性学特論Ⅰ/修士論文指導(通年)

人間文化研究科(博士課程)人間発達学専攻 女性学講座

後期特殊講義

ジェンダー形成論演習(2)

博士論文指導

6. 文献・資料収集/情報提供/閲覧

〈収集資料点数〉

平成8年4月から平成9年3月までに収集した資料は和漢書単行本1065冊、洋書単行本281冊、その他雑誌・パンフレットなど多数。

〈主要収集資料〉

ジェンダーとセクシュアリティに関する文献・資料/ネパール・タイの女性に関する文献・資料/開発とジェンダー教育に関する文献・資料/女性と自然科学に関する文献・資料/リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する文献・資料/アジアの女性政策と開発に関する文献・資料/「女性とたばこ」に関する文献・資料/韓国の女子中等教育に関する文献・資料

〈資料提供〉

○平成8年10月 青森テレビ「日本の科学の先駆者たち」制作に使用するため、湯浅年子写真帳およびその他の資料を株式会社ヴィジュアルベイに提供。

○平成9年1月 東京ウィメンズプラザパネル展「ジェンダー・フリー その新しい生き方」に展示するため、東京女性財団に職業啓発に関するポスター類17点を提供。

〈リファレンス・サービス、閲覧、貸出等〉

常時附属図書館情報サービス係・情報システム係で担当。

〈図書・資料寄贈〉(敬称略)

掲載は、和書：寄贈者名『書名』(著者名)、洋書：寄贈者名書名(イタリック)(著者名)の順とした。

山崎美和恵『湯浅年子 パリに生きて』(山崎美和恵) 生活文化研究会『社会保障論の新潮流』(社会保障研究所編) 国立婦人教育会館『統計にみる女性の現状』(婦人教育研究会編) 川野綾子『水町京子文集(生誕百年記念)』(水町京子) 押川文子『ヒンドゥー社会と女性解放』(バーバー・パドマンジー他) 国枝タカ子『オリンピックものしり小事典』(日本オリンピックアカデミー編) 鳥取女子短期大学北東アジア文化総合研究所『鳥取県の環日本海交流』(鳥取女子短期大学北東アジア文化総合研究所編) 原恵理子『フェミニズムと演劇』(ゲイル・オースティン) エンゼル財団『神々の風景と日本人のこころ』(山折哲雄他) 「女性研究者 愛知女性研究者の会」『女性研究者』(「女性研究者 愛知女性研究者の会20年のあゆみ」編) 植木雅俊『男性原理と女性原理』(植木雅俊) 因藤莊助『日本の女性が世界を救う』(花東社編 因藤莊助著) 総理府男女共同参画室『ナイロビから北京へ』(総理府) TASC『たばこの社会史』(ジョーダン・グッドマン) 篁笙子『華やかな氾濫』(篁笙子), 『理想の離婚』(メトロポリタン出版部編) 田中寿美子さんを偲ぶ会『美しく立てり—田中寿美子さんを偲ぶ』(田中寿美子さんを偲ぶ会編) 武田公子『生活経済思想の系譜』(小野秀生編) 村松泰子・藤原千佳『女性の理系能力を生かす』(村松泰子編) 石尾美代子『ハル・ハウスの20年』(ジェーン・アダムス) 山本和子『ザ・サクセス 女性の起業戦略』(梅沢昌太郎・山本和子) 三溪庵明『契約結婚』(三溪庵明) 原ひろ子・館かおる『アジア・太平洋地域の女性政策と女性学』(原ひろ子他編) 玉枝プリンドル『おかあさんの百年史』(読売新聞社編), 『男対女』(犬養道子), 『母の教え』(ノンブック編集部編) 館かおる『北京世界女性会議 行動綱領草案対訳』(北京世界女性会議に提言する会) 原ひろ子『初手はの 上下』(真藤ミチヨ述 真藤アヤ記), 『永遠の農婦たち』(一条ふみ), 『婦人参政権の市川房枝を継承する』(日本婦人有権者同盟創立50周年記念事業実行委員会), 『日本婦人有権者同盟年表 1985年～1990年 1990年～1995年』(日本婦人有権者同盟), 『自伝のこぎり一代 上下』(吉川金次), 『歴史をひらく愛と結婚』(福岡女性学研究会編), 『アメリカ民族文化の研究』(綾部恒雄編), 『超えられなかった海峡』(加納実紀代), 『性の民族誌』(須藤健一他編), 『新・世界の女たちはいま』(柴山恵美)

子編著),『静かな社会変動』(野村浩一他編),『ドキュメント 中国の人口管理』(若林敬子編),『アメリカの黒人家族』(青柳清孝),『歴史家と母たち』(上村忠男),『シェラの人びと』(J・A・ピット・リバーズ),『謎ときミストラル』(田村さと子),『ルボ 二億人の「奴隷」たち』(ゴードン・トーマス),『ゴゴ・インド』(蔵前仁一),『ジェンダーと科学』(エヴリン・フォックス・ケラー),『穂積歌子日記 明治23-39年』(穂積重行編),『北の生活文化』(宮島高弘),『歴史の島々』(マーシャル・サーリンズ),『スポーツと現代アメリカ』(アレン・グートマン),『赤線従業婦の手記』(関根弘編),『重障児』(山陽新聞社編),『シングルス』(ヘルマン・シュライバー),『アメリカの大型財団 企業と社会』(ワルデマー・A・ニールセン),『アジア読本 インドネシア』(宮崎恒二編),『ジュスマ・マンシュルさん物語』(田中寿美子他),『21世紀のライフスタイル』(三東純子編),『現代家庭経営学』(今井光映他編),『家政学概論』(好本照子他),『アメリカ時代の終り』(A・ハッカー),『アメリカの文化と国民性』(ブラッドフォード・スミス),『子心の白覚 松村謙の教育実態』(松村謙先生勇退記念誌編集委員会編),『育てる』(鶴見俊輔他),『裸のアメリカ人』(和田好清),『しつけ』(我妻洋・原ひろ子),『家政知を考える』(長嶋俊介他編),『家庭経済学概説』(伊藤秋子編著),『生活学としての家政学』(今井光映他編),『住生活学』(扇田信),『住居学』(石井孝重他),『新しい家庭経営』(坂本武人編著),『婦人問題辞典』(婦人問題辞典刊行委員会編),『日本・ドイツ 女性の新しいねり』(東京ドイツ文化センター編),『文化の地平線』(井上忠司他編),『子どもの光る街』(山本保),『戦後警察史』(警察庁警察史編纂委員会編),『イスラームの女たち』(ナイラ・ミナイ),『「母性」を解読する』(グループ「母性」解読講座編),『「女縁」が世の中を変える』(上野千鶴子他編),『住まいと住み方』(日本家政学会編),『住まいと住環境』(日本家政学会編),『生活情報論』(日本家政学会編),『生活環境論』(日本家政学会編),『生活資源論』(日本家政学会編),『生活設計論』(日本家政学会編),『生活文化論』(日本家政学会編),『鶴ヶ島町史』(鶴ヶ島町史編纂室),『Oの物語』(R・M・カンター),『雑草のようにたくましく』(赤松常子編集委員会),『先史時代の人類』(R・J・ブレイドウッド),『與謝野晶子未発表書簡』(杉本邦子他編),『現代日本の主婦』(国際女性学会編),『誰のために子どもを産むか』(青木やよひ編),『働く母親の時代』(岩男寿美子編),『母性栄養学』(澤崎千秋),『新版 家政学原論家庭経営』(横山光子他),『レイニ・マウンテンへの道』(ナヴァル・スコット・ママディ),『素顔のニューヨーク』(増山恒子),『ザイール・ノート』(米山俊直),『〈女と仕事〉の本 3』(国際女性学会編),『生きるということ』(村岡花子),『生活時間の構造分析』

(経済企画庁国民生活局国民生活調査課編),『高齢者問題の現状』(総理府編),『我が国の政府開発援助 上下』(外務省経済協力局編),『現代の青少年』(総理府青少年対策本部編),『母の「京城」・私のソウル』(沢井理恵),『民族の世界』(エルマン・R・サーヴィス),『宗教人類学』(佐々木宏幹),『チンパンジーの原野』(伊谷純一郎),『ヤミ市 幻のガイドブック』(松平誠),『馮霊信仰論』(小松和彦),『アメリカの秘密結社』(綾部恒堆),『アメリカ人』(加藤秀俊),『黒人大学留学記』(青柳清孝),『アメリカン・ライフ』(小宮隆太郎),『アメリカ夏象冬記』(安岡章太郎),『アメリカ感情旅行』(安岡章太郎),『男女共同参画審議会部会における論点整理』に対する意見・要望 1・2』(内閣総理大臣官房男女共同参画室),『資料 日本ウーマンリブ史Ⅲ 1975~1982』(溝口明代他編),『衆議院選挙における政党・政治団体の政治活動の手引』(自治省選挙局),『農村に生きるわたくしたち』(農林省生活改善課編),『まがりかどに生きる』(農林漁業生活改善研究会編),『アメリカ人民の歴史』(レオ・ヒューバーマン),『博物館の世界』(梅棹忠夫編),『妻は囚われているか』(ハンナ・ギャブロン),『ネルー』(中村平治),『いまアジアを考える Ⅲ』(片倉もとこ他),『健康のための住宅読本』(小泉英雄),『日本住宅の封建性』(濱ロミホ),『家族の法』(利谷信義),『インドを食べる』(浅野哲哉),『インド片恋い』(イーデス・ハンソン),『性病的復活』(晁晔李正堂編),『北京大学社会学十年』(北京大学社会学系社会学人类学研究所編),『婚姻法指要 中华人民共和国妇女权益保障法』(邓宏碧編),『我国生育率下降趋势和问题』(袁方編),『妇女研究动态第1期1993年4月』(北京大学中外妇女问题研究中心編),『社会学与社会调查1993. 1-2』(蔡文眉編),『国外社会科学92' 3』(吴安迪編),『中国妇女管理干部学院学报'93 3』(贾秀总編),『中国农村家庭』(薛素珍, 赵喜順, 費涓洪, 周开丽),『社会学研究1991. 3』(张琢編),『工艺美术设计』(庞薰琹),『妇女业家庭—中日比较研究调查报告』(马有才, 刘英, 盛学文, 蒙晨),『中国家庭及其變遷』(喬健編),『中国城镇居民家庭收支调查资料』(国家统计局城市社会经济调查总队),『中華人民共和国文省地图集』(許美瑜編),『中国省市自治区资料手册』(寿孝鶴, 李雄藩, 孫庶玉編),『独生子女—他们的家庭教育和未来』(风笑天),『现状挑战前景—亚太地区社会工作教育研讨会论文集』(周永新, 阮曾媛其, 王恩斌, 张华編),『法学基礎知識』(逢東励, 王彦春編),『中国婚姻家庭研究』(刘英, 薛素珍編),『中国青少年发展状况研究报告1992』(中国青少年发展基金会国家科委中国科技促进发展研究中心),『妇女词典』(王君, 冯世平編),『妇女風俗考』(高洪头, 徐锦钧, 张强),『中国民间禁忌』(任骋),『中国妇女运动史』(任芬編),『社会学 上下』(伊恩・罗伯逊),『马克思主义妇女观简明教程』(娜仁, 孙晓梅編),『北

学妇女問題首届国際研討會論文集1992』(臧健編),『文化と
 与藝術論壇1992-No.1』(梁秋弥),『社会統計学』(袁方編),
 『民族学新論』(周星),『社会心理学』(沙達香編),『城乡協
 調發展研究』(周尔鏞,張雨林編),『中国労働年鑑(1988-
 1989)』(王建新編),『婦女解放問題文選1938-1987』(中華全國
 婦女聯合會編),『老革命家の恋愛婚姻和家庭生活』(趙長安,
 蘭微,張天若),『中国婦女社会地位概観』(陶春芳,將永萍
 編) 王麗容『婦女与社会政策』(王麗容) 須田幸子『平
 和・人権・福祉の政治学』(石田雄),『女から生まれる』(ア
 ドリエヌ・リッチ),『90年代のアダムとイヴ』(上野千鶴
 子),『留置場女たちの告発』(手塚千砂子編),『HELPから
 見た日本』(大島静子,キャロリン・フランシス),『家庭
 科,なぜ女だけ!』(家庭科の男女共修をすすめる会編),
 『最愛のひと 勘十へ』(加藤シヅエ),『女性と狂気』(フィ
 リス・チェスラー),『死に臨んでうたえる』(水野浩編),
 『ガンと道づれ』(蜂谷章子,蜂谷隆),『姦通の記号学』(大
 岡昇平),『ME革命と女性労働者』(コンピューターと女性
 労働者を考える会編),『アンチ・ヘテロセクシズム』(平野
 広朗),『女銀行家』(ジャン・ノリ他),『女たちは地球人』
 (三井マリ子他),『九津見房子の暦』(牧瀬菊枝編),『田中ウ
 タ』(牧瀬菊枝編),『聞書 ひたむきの女たち』(牧瀬菊枝),
 『40才からの老いの探検学』(上野千鶴子),『1930年代を生き
 る』(牧瀬菊枝),『元始,女性は太陽であった 上下』(平塚
 らいてう),『性の女性史』(ハリエット・ギルバート),『続・
 留置場 女たちの告発』(手塚千砂子編著),『不妊』(レナ
 テ・クライン編),『バトル・セックス』(パンドラ編),『女
 の人権と性』(日本家族計画連盟編),『女・仕事』(井上理津
 子他),『アフリカはなぜ飢えるのか』(ロイド・ティンバ
 レイク),『スカートの下劇場』(上野千鶴子),『働く女が未
 来を拓く』(中島通子編),『日本資本主義と蚕糸業』(瀧澤秀
 樹),『夫・恋人の暴力から自由になるために』(ジエー・ニ
 ッキヤーシー他),『アラン峠の女』(高峻石),『死を招く援
 助』(ブリギッテ・エルラー),『解説 女子労働判例』(勝又
 正寿他編著),『非暴力トレーニング』(阿木幸男),『素敵な
 ヘルメット』(モリー・マーティン編),『風流夢譚』事件以
 降』(中村智子),『母と私』(大竹一燈子),『遊色』(澤地久枝),
 『みわたせばあらッ男ばかり』(三井マリ子),『最後の植民地』
 (ブノワット・グルー),『鹿鳴館の系譜』(磯田光一),『女の
 一生』(もろさわようこ編・解説),『ハイト・リポート』(シェ
 アー・ハイト),『保護と平等』(労働教育センター編),『魂
 にふれるアジア』(松井やより),『ファースト・セックス』
 (エリザベス・G・デイビス),『読む辞典・女の世界史』(原
 ひろ子他編),『閉じられた履歴書』(兼松左知子),『何処に
 いようとふりあん』(田中美津),『売春』(神崎清),『ウ
 ーマンラヴィング』(シカゴ大学編),『与論島を出た民の歴史』

(森崎和江他),『パートタイマーQ&A』(中島通子),『丹野
 セツ 革命運動に生きる』(山代巴他編),『性の弁証法』(シュ
 ラミス・ファイアストーン),『性の深層』(アリス・シュヴァ
 ルツァー),『韓国女性運動史』(丁堯燮),『高群逸枝とポー
 ヴォワール』(高良留美子),『おんな・部落・沖縄』(もろさ
 わようこ),『おんなの戦後史』(もろさわようこ),『おんな
 の歴史 上下』(もろさわようこ),『女と教育』(もろさわよ
 うこ),『信濃のおんな 上下』(もろさわようこ),『女の論
 理序説』(河野信子),『たたかう女100年』(金森トシエ),『婦
 人論のイデオロギー』(村上益子編),『女性解放とは何か』
 (松井やより),『山内みな自伝』(山内みな),『わが愛はパレ
 スチナ』(ライラ・カリド),『長谷川テル作品集』(宮本正男
 編),『新版 あ・野麦峠』(山本茂実),『奄美女性誌』(長田
 須磨),『何が私をかうさせたか』(大島英三郎編),『女性解
 放へ』(山川菊枝),『人民の沈黙』(松井やより),『性と文化
 の革命』(W・ライヒ),『性の革命』(W・ライヒ),『土と女』
 (真尾悦子),『従軍慰安婦』(千田夏光),『あしたの女たちへ』
 (樋口恵子編著),『入門女性解放論』(一番ヶ瀬康子編),『余
 白の春』(瀬戸内晴美),『風の慟哭』(金賛汀他),『火花よこ
 の闇を照らせ』(金一哲),『近代民衆の記録1-4, 6, 10』(松
 永伍一編,上野英信編,谷川健一編,林英夫編,山田昭次編,
 小沢有作編),『儒教社会の女性たち』(岸辺成雄編),『琉球
 慰安婦』(富村順一),『ひとすじの道』(田島ひで),『メイド
 イン東南アジア』(塩沢美代子),『性の王国』(佐野真一),
 『娼娼ひとすじ』(久布白落実),『かの子撩乱』(瀬戸内晴美),
 『女性の歴史 上下』(高群逸枝),『キーセン観光実態報告書』
 (韓国教会女性連合編),『女性と労働組合』(山田郁子),『婦
 人論』(H・ポリット編),『朝鮮人女性がみた「慰安婦問題」』
 (尹貞玉他),『女たちのアジア』(松井やより),『妻たちの二・
 二六事件』(澤地久枝),『女工哀史』(細井和喜蔵),『結婚退
 職後の私たち』(塩沢美代子),『婦人の賃金と仕事』(桜井絹
 江),『日本の婦人問題』(村上信彦),『働く婦人と母性保護』
 (嶋津千利世),『婦人論 上下』(ペーベル),『第二の性 (1)
 (2)』(ポーヴォワール),『フェミニズムはどこへゆく』(日
 本女性学研究会'85年5月シンポジウム企画集団編),『ミス・
 コンテストNON!』(堺市女性団体連絡協議会),『女子高生
 コンクリート詰め殺人事件』(おんな通信社編),『テルの生
 涯』(利根光一),『買う男・買わない男』(パンドラ編),『管
 野すが』(絲屋寿雄),『ひとり暮らしの戦後史』(塩沢美代子
 他),『女性解放思想の歩み』(水田珠枝),『神の民俗誌』(宮
 田登),『日本文化史』(家永三郎)

玉枝プリンドル *Gyn/Ecology* (Mary Daly), Beverly J.
 Ghezzi *An Approach to Japanese Women's Entry to
 Science* (Beverly J. Ghezzi) サレハ・ベグム *No better*

- Option?* (Hameeda Hossain) アパルナ・バス *Women's Struggle* (Aparna Basu) 館かおる *Japanese Women* (Kumiko Fujimura-Fanselow, et al. eds.) 葉大華 *Give Her a Piece of Land to Grow* (ECPAT) タン・ダム・トゥルン *Women, the Environment and Sustainable Development* (Rosi Braidotti, et al.), *Development Policy and Public Action* (Mare Wuyts, et al. eds.), *Autonomous Development* (Raff Carmen), *Compassion and Calculation* (David Sogge) 生活文化研究会 *Women, Politics, and the United Nations* (Anne Winslow, ed.), *International Women's Writing* (Anne E. Brown, et al. eds.), *Envisioning the New Adam* (Paula Hooper Mayhew), *Clara Barton* (David H. Burton), *Feminists Theorize the Political* (Judith Butler, et al. eds.), *Some Appointed Work to Do* (Robin B. Colby), *Women and the Politics of Empowerment* (Ann Bookman, et al. eds.) 原ひろ子 *Proceedings of Asia-Pacific Regional Conference on Future of the Family* (Institute of Sociology Chinese Academy of Social Sciences), *Women in Egyptian Public Life* (Earl L. Sullivan), *Egyptian Women in Social Development* (The Network of Egyptian Professional Women), *The Liberation of Women* (Qasim Amin), *Women and Gender in Islam* (Leila Ahmed), *Gender Inequalities and Demographic Behavior, Egypt* (Nora Guhl Noguib, et al.), *Gender Writing/Writing Gender* (Nadje Sadig Al-Ali), *Interrogating Incest* (Vikki Bell), *Social Feminism* (Naomi Black), *Canadian Women* (Alison Prentice, et al.), *Women in Control?* (Frances Heidensohn), *Symposium on Environment and Culture with Emphasis on Urban Issues* (The Siam Society), *Texts, Facts, and Femininity* (Dorothy E. Smith), *Fathers and Daughters* (Sue Sharpe), *Social Theory and the Global Environment* (Michael Redclift, et al. eds.), *Effective Proposal Writing* (George A. Atting, et al.), *Up against Foucault* (Caroline Ramazanoglu, ed.), *The Making of Anti-Sexist Men* (Harry Christian), *Oedipus in Evolution* (Christopher Badcock), *Die Grosse Mutter* (Erich Neumann), *Marriage and Inequality in Chinese Society* (Rubie S. Watson, et al. eds.), *Chinese Footbinding* (Howard S. Levy), *The World of Our Mothers* (Sydney Stahl Weinberg), *Recreating Japanese Women, 1600-1945* (Gail Lee Bernstein, ed.), *Sacred Dimensions of Women's Experience* (Elizabeth Dodson Gray, ed.), *The Women of Suye Mura* (Robert J. Smith, et al.), *The Rapids of Change* (Robert Theobald), *Social Science Research and Women in the Arab World* (UNESCO), *The Nuer* (E. E. Evans-Pritchard), *Bibliographic Guide to Studies on the Status of Women Development and Population Trends* (UNESCO), *Sex Differences in Depression* (Susan Nolen-Hoeksema), *The Ethics of Feminism* (A. R. Wadia), *The House of Si Abd Allah* (Henry Munson Jr., ed.), *Chinese Village, Socialist State* (Edward Friedman, et al.), *Kodomo no tameni: For the Sake of the Children* (Dennis M. Ogawa), *Medicine and Charity before the Welfare State* (Jonathan Barry, et al. eds.), *Windows in African Societies* (Betty Potash, ed.), *Never in Anger* (Jean L. Briggs), *The Extended Family* (Gail Minault, ed.), *The Sanusi of Cyrenaica* (E. E. Evans-Pritchard), *Women in Chinese Society* (Margery Wolf, et al. eds.), *Women in the Muslim World* (Lois Beck, et al. eds.), *Women in the Villages, Men in the Town* (UNESCO), *An Annotated Index of Medieval Women* (Anne Echols; Marty Williams), *Encounters with American Ethnic Cultures* (Philip L. Kilbride, et al. eds.), *Kinship, Gender and the Cosmic World* (K. Yamaji, ed.), *Bedouin Village* (Motoko Katakura), *Black Women in America* (Micheline R. Malson, et al. eds.), *The Politics of Kinship* (J. Van Velsen), *The Indian Middle Classes* (B. B. Misra), *The World of the Blue Collar Worker* (Irving Howe, ed.), *Honour, Family, and Patronage* (J. K. Campbell), *African Women in Towns* (Kenneth Little), *Dreams and Deeds* (Robert A. Le Vine), *Beyond the Veil* (Fatima Mernissi), *Husbands and Wives* (Donald M. Wolfe, et al.), *Chinese Communist Society* (C. K. Yang), *Tiwi Wives* (Jane C. Goodale), *House United House Divided* (Myron L. Cohen), *America as a Civilization Vol. 1.2* (Max Lerner), *A Sociological Perspective of Sport* (Wilbert Marcellus Leonard II), *The American* (Henry James), *The Tentative Pregnancy* (Barbara Katz Rothman), *The Harmless People* (Elizabeth Marshall Thomas), *Kinship and Marriage* (Robin Fox), *The Social Animal* (Eliot Aronson), *Scottish Family History* (David Moody), *Center and Periphery: Essays in Macrosociology* (Edward Shils)
- <来館・閲覧者> (抄) (敬称略, 表記は記名による)
 なお, ジェンダー研究センターの正式の発足は5月11日であるが, 4月からの記録を掲載した。

平成8年4月1日, 18日 池田成美, 4月5日 ビナルク・フェムトゥル(東京大学), 岡田英子(日本社会事業大学), 4月7日 棚橋晶子(関西大学), 4月22日 新井淑子(埼玉大学), 引間敦子(埼玉大学), 4月25日 佐川祥子(労働旬報社), 4月26日 鄭好善(東京経済大学), 5月1日 池田恵子(一橋大学), 5月13日 野里房代(青山学院大学), 5月14日 佐藤(佐久間)りか(プリンストン大学大学院), 5月15日 山本隆也(日本教育新聞社), 5月16日, 6月24日, 28日, 7月15日 ビナルク・フェムトゥル(東京大学), 5月20日, 27日 横石多希子(仙台白百合女子大学専任講師), 5月23日 山口富子(国連地域開発センター四日市分室研究員), 5月24日 ティニイ・プリアンティニイ(ジャパンファンデーション), アルマ・ディアナ・カルティカ(ブンハッタ大学), 5月28日 山本和加子(近世女性史研究会), 5月29日 市川薫子(University of New Castle), 5月30日 石川真理子(女子栄養大学大学院), 5月31日 村山真弓(アジア経済研究所), 6月2日 中山まき子(鳴門教育大学), 6月4日 宮野玲子(公明新聞), 6月5日 須田さくみ(東海大学出版会), 北村邦夫(日本家族計画協会クリニック所長), 杉村由香里(日本家族計画協会), 6月6日 伊志嶺美津子(女子美術短期大学), 6月6日, 10日, 19日 アン・ヨンソン(東京大学), 6月7日 稲垣照哉(全国農業会議所経営部調査役), 宮崎信江(サンパウロ大学教授), 6月10日 太田淑子(都立南葛飾高校), 6月13日, 14日 ナグラ・ハフィズ(東京大学), 7月2日 金谷慧子(関西大学), 7月3日, 4日 青山薫(University of Sheffield), 樽松かほる(桜美林大学教授), 7月8日, 9日 及川知子(リムリック大学), 7月11日 神田健三(中谷宇吉郎雪の科学館), 7月12日 川嶋瑤子(日米女性センター), ヘイスティングズ・サリ(Purdue University), 7月12日, 17日, 29日 萩原範子(オーストラリア国立カティン大学大学院), 7月16日 阿曾村智子(ヴェネズエラ国立中央大学), 7月17日 高橋由紀(民族学振興会), 7月18日 大下富佐江, 7月22日 馬玉珍(群馬大学社会情報学部中国社会科学院日本研究所), 7月3日 阿部ひで子ノーネス(バンダービルト大学助教授), 7月31日 金沢和美(国立バリ社会科学高等研究院), 8月5日 中山まき子(鳴門教育大学), 安岡亜紀(ミルヴァ書房), 森口とよ, 8月6日 三宅美由紀(九州大学教育学部), 8月7日 矢島不二男(元通産省技官), 齊藤正美(富山大学大学院), 8月15日 齋藤由紀, 8月20日 石川伊織(県立新潟女子短期大学助教授), 8月21日 大前顕作(株日本トーター), 8月23日 ノール多美子(University of Pittsburgh), 8月26日 島崎典子(恵泉女学園大学), 間野嘉津子(大阪経済大学教授), 瀬山紀子(京都精華大学), 8月27日 館野久美子(オックスフォード大学), 9月4日 稗田慶子(福岡

県立女性財団館長), 9月18日 フレデリック・セーラ(早稲田大学), 9月25日 庄司節子, 9月28日 馬玉珍(群馬大学), LIN QI(北京大学), 新庄健史(城西国際大学人文学部国際文化学科), 小菅一吉(城西国際大学人文学部国際文化学科), 10月24日 ヴェラ・マッキー(メルボルン大学歴史科講師), 高橋由紀(民族学振興会), 11月6日 野崎薫(長谷工総研), 11月13日 韓明淑(梨花女子大学亜細亜女性学センター), 11月28日 井伊尚子(台東区女性セミナー企画委員), 吉岡眞弓(台東区女性セミナー企画委員), 12月9日 金静伊(株不二出版), 12月17日 磐村文乃(静岡県女性総合センター), 飯野りさ(東京大学大学院総合文化研究科研究生), 12月17日, 2月17日 リム・ヒサン(慶応大学), 平成9年1月9日 高橋由紀(民族学振興会), 1月14日 蔡洙雅(Kyong-ki University), 1月21日 鄭鎮星(韓国ソウル大学副教授), 2月6日 天願真弓(琉球大学), 許美瑞(国立台湾師範大学), 2月7日 阿武喜美子(お茶の水女子大学名誉教授), 戸田紀子(桜陰学園講師), 2月12日 サラ・ティズリー(横浜国立大学), 2月17日 杉本史子(立命館大学), 2月18日 増田仁(京都大学教育学部), 2月27日 平出彰子(カリフォルニア大学アシスタント), 吉原恵子(東京大学大学院教育学研究科), 和田良子(カリフォルニア大学日本研究所), 3月6日 八竹亜紀(立正大学大学院), 3月12日 下山美徳(メルボルン大学文学部女性学科), 3月21日 小澤勢津子(国際協力事業団), SANO MAINYA SHRESTHA, 3月28日 柳田承一(日本加除出版), 魚住みつ子(葛飾赤十字産院)